

建築士の日事業

旧加古川公会堂講演会、見学会 ～「文化遺産としての旧加古川公会堂」～ 事業報告

昨年に引き続き、令和5年6月25日(日)、「建築士の日」事業が執り行われました。

「建築士の日」事業は一般市民向けに建築士の職能や活動をアピールする事業であり、本年は、加古川市にある旧加古川公会堂の建物に関する講演と見学を企画しました。

この建物は1935年竣工の近代建築の名作であり、公会堂から図書館へと用途を変遷させながら、長く加古川市民に親しまれた建物です。かつては作家三島由紀夫が徴兵検査を受けた、という逸話も残っております。

また、設計は兵庫県営繕部出身で当会初代会長の置塩章であり、その点でもこの「建築士の日」事業にふさわしいのではないかと思います。

事業は講演会と見学会の2部構成とし、講師及び案内役には京都工芸繊維大学の笠原一人先生をお招きしました。笠原先生は、数多くのこのような近代建築の講演や見学会を企画、実施されておられる方です。

講演会は、「文化遺産としての旧加古川公会堂」をテーマとし、内容は、加古川公会堂建設の経緯から、その歴史的価値、置塩章の経歴とその作品群の紹介、また兵庫県内での近代建築の保存活用状況など多岐にわたる内容でした。

見学会では、笠原先生の案内により、内部、外部を約40分程度の見学いたしました。

この建物は置塩章が得意とするネオゴシックを基調とするも、ロマネスクやアールデコ、ゼセッションスタイル、一部にはモダニズムの手法を取り入れるなど多様な様式を自在に操りながら、破綻なくまとめあげる置塩章の技量の高さを、存分に堪能できました。

総参加者38名の盛況で、参加者からも大変好評でした。改めてこのような地域に根差した建築に対する市民の関心の高さを実感いたしました。



- 日時：令和5年6月25日(日) 14:00～16:30
- 会場：講演会…加古川公民館（加古川市加古川町寺家町 12-4）
見学会…旧加古川公会堂(旧加古川図書館)（加古川市加古川町木村 226-1）
- 講師、案内役：京都工芸繊維大学助教 笠原一人
- 対象：一般市民
- 参加者：38名（うちスタッフ11名）
- 内容：講演「文化遺産としての旧加古川公会堂」及び旧加古川公会堂見学